

<b>5-1</b>			
主題	他法人協働で目指す「未来の仲間」への呼びかけによる成果について		
副題	お年寄りの想いに寄りそう活動を通して若い職員が学生に介護の魅力を伝える		
キーワード1	人材育成	キーワード2	介護の魅力
		研究(実践)期間	22ヶ月

法人名	さんえんキャンプ実行委員会(社会福祉法人 ほうえい会、社会福祉法人 溪流会)		
事業所名	特別養護老人ホーム 栄光の杜、特別養護老人ホーム 草花苑		
発表者(職種)	夏井理恵(介護職員)、福泉加奈(介護職員)		
共同研究(実践)者	なし		

電話	042-597-1536	FAX	042-597-1920
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都西多摩地区の特別養護老人ホーム栄光の杜、草花苑、増戸ホームの異なる法人3施設で発足しました。“お年寄りの想いに寄りそう活動を通して、学生に介護の素晴らしさを感じてもらいたい”という思いから、20代の職員を中心として介護体験キャンプを軸に、介護の魅力を伝えていく取り組みを行っています。
------------------	---

**《1. 研究(実践)前の状況と課題》**

- 介護職から元気を発信していく  
介護職人材難の一因として、介護に対するマイナスイメージがある。これを払拭しプラスイメージに転換していくには、私達から積極的な発信が必要ではないか。
- また、複数の事業所が協働する事で規模を拡大した活動を合理的に行い、より多くの学生に参加してもらいたい。

**《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》**

- 「その方らしさの発露から願いが叶うまで」  
介護職イメージの中にも散見される「ADLケアが大変」「ルーチンワークの仕事」など表面的に捉えられてしまう印象の転換を狙いたい。その為に、お年寄りのその方らしさが表現される場を学生と共有し、支援経過の理解と成果(喜び)を分かち合う事で介護の魅力を感じてもらいたい。私達との協働活動で、介護職としての持つやりがい、充実感を伝えることが出来るのではないか。

**《3. 具体的な取り組みの内容》**

- ① 組織構成  
各法人から学生の年齢に近い20代の職員を3名選出する。
- ② 活動方針  
「お年寄りの想いに寄りそう」とする。
- ③ 活動内容
  - ・会議  
毎月2回の会議を開催し、今後の活動について話し合いを行う。
  - ・広報  
インターネットやポスターを使用し公共施設や学校へ広報活動を行う。
- ④ 1泊2日の介護体験キャンプの実施  
1日目は各施設で職員が作成したお年寄りの想いに寄りそった企画を実施し、学生とお年寄りとの関わりの場を設けた。2日目は3施設合同施設見学を実施し、実際の現場の中でもケアの展開方法に違いがある事を説明した。

#### 《4. 取り組みの結果》

##### ① 「広報活動」

資料送付のみでは学生に情報が届き辛く、教員や学生に直接説明を重ねる事で企画への理解が深まり、参加者の獲得に繋がった。

##### ② 「介護体験」

介護体験では、日頃の関わりからお年寄りに対して期待される効果やリスクを考慮し、多くの職員からの情報を基に企画を実施した。学生が職員とお年寄りの関わりを直接見て、学生自身も関わった。その結果、私達がお年寄りの一人一人の思いを大切にし、やりがいや充実感を持って介護に携わっている事を感じてもらえる機会となった。

##### ③ 「参加学生の声、体験後の様子」

実際のアンケート結果から、「介護は肉体労働のルーチンワークというイメージがあった。しかし、お年寄りの喜ばれる姿でやりがいを持って頑張ろうという気持ちになれると感じた」との言葉があり、学生のイメージの劇的な変化を実感した。また、参加学校の教員から「今回の活動に参加した学生が経験を活かして日々の学業に積極的に取り組み、課題や授業の質も上がり学生自身の成長にも繋がっている」との報告があった。

#### 《5. 考察、まとめ》

介護を学んでいる学生でも、介護に対するマイナスイメージを持っていた。お年寄りのその方らしい表現をされる場を学生と共有し、職員からその充実感や専門性を伝えることで、マイナスイメージの払拭のみならず、期待感を持ってもらえることがアンケート結果からも読み取る事が出来る。

この活動を継続するにあたり、施設側として参加学生が次世代の介護職員と成り得る貴重な人材だと認識する事、活動に携わる職員の時間の確保等のバックアップをしていく事が必要不可欠である。

また、他事業所と共同企画する際は、それぞれの事業所のカラーや組織風土があるため、介護の魅力を伝える要点については十分

に時間をかける必要がある。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しない事、それにより不利益を被ることはない事を説明し、回答をもって同意を得た事とした。

#### 《7. 参考文献》

なし

#### 《8. 提案と発信》

##### ① 私達が伝えなければならない事

介護人材の開拓は受け身では効果が無い。私達が日頃感じているやりがいや充実感を具体的な形で、そして真剣に伝える事が必要である。

今回の活動に参加した学生を、私達の事業所に囲いたいわけではない。この業界の中で共に働く仲間となっていく事が、何よりもサービスを必要としているお年寄りにとって大切な事ではないだろうか。

##### ② 広域的な取り組み

一事業だけで学生への呼びかけを行っても、その事業所ならではの取り組みとなってしまう可能性がある。介護イメージ転換には事業所の垣根を越えて、広域的な「介護職員たち」が呼びかけるという方法が、学生の納得感を強める事が出来ると思う。

今後は様々な事業所が連携して、学生のみならず、あらゆる世代の人に介護の魅力を発信していく事が高齢者福祉業界にとって大切な事なのではないだろうか。